

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-17310

(P2010-17310A)

(43) 公開日 平成22年1月28日(2010.1.28)

(51) Int.Cl.
A63F 7/02 (2006.01)F 1
A63F 7/02 312Zテーマコード (参考)
2C088

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 20 頁)

(21) 出願番号 特願2008-179426 (P2008-179426)
(22) 出願日 平成20年7月9日(2008.7.9)(71) 出願人 000161806
京楽産業、株式会社
愛知県名古屋市中区錦三丁目24番4号
(74) 代理人 100076473
弁理士 飯田 昭夫
(74) 代理人 100112900
弁理士 江間 路子
(74) 代理人 100136995
弁理士 上田 千織
(74) 代理人 100150935
弁理士 村松 孝哉
(72) 発明者 泉 邦秋
愛知県名古屋市中区錦三丁目24番4号
京楽産業、株式会社内

最終頁に続く

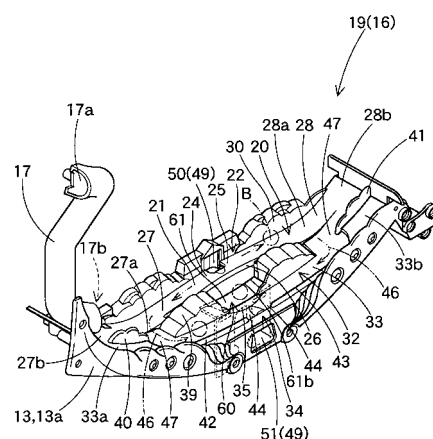
(54) 【発明の名称】 パチンコ遊技機

(57) 【要約】

【課題】遊技球を流入口付近までリフトにより上昇させる際に、一層、遊技の趣向性を向上させることができるパチンコ遊技機を提供すること。

【解決手段】センター役物16が、遊技球Bを、上面側の支持面61上に載せて下ステージ32側から上ステージ20側まで上昇可能として、上下往復移動するリフト60を備える。上ステージには、遊技球Bを流出口51から入賞口へ向けて流出可能な入賞補助通路49の流入口50が開口される。流入口の周囲には、遊技球を上ステージから下ステージに転動可能な戻しルート46としての隣接エリア24, 25が配設される。支持面61は、リフトの最上昇時に、流入口50と隣接エリア24, 25とにわたる前側に後縁61bを配置させて、支持した遊技球を左右に揺動可能として流入口や左右の隣接エリアに転動可能に、後下がりで、かつ、下方へ凹む凹面としている。

【選択図】図2



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

センター役物が、

遊技球をそれぞれ転動可能な上ステージと該上ステージの下方に配置される下ステージとの少なくとも二つのステージを有するステージ部と、

遊技球を、前記上ステージに開口させた流入口から流入させ、流出口から入賞口へ向けて流出可能とする入賞補助通路と、

遊技球を、上面側の支持面上に載せて前記下ステージ側から前記上ステージ側まで上昇可能として、上下往復移動可能なリフトと、

前記流入口に流入しなかった遊技球を、前記上ステージから前記下ステージに戻し可能な戻しルートと、

前記下ステージに配置されて、前記下ステージの前縁から遊技球をセンター役物外へ排出可能な排出路と、

前記ステージ部に遊技球を入球させる入球口と、

を備えて構成されるパチンコ遊技機であって、

前記リフトが、

前記支持面の左右方向の幅寸法を、前記流入口の左右方向の開口寸法と、前記上ステージの戻しルートにおける前記流入口の左右にそれぞれ隣接する少なくとも遊技球 1 個の直径寸法分の隣接エリアの左右方向の幅寸法と、を合わせた寸法以上として、前記流入口の前側に配置されるとともに、

最下降時の前記支持面を、前記下ステージを転動する遊技球を受け入れ可能な高さ位置に配置させ、かつ、最上昇時の前記支持面の後縁側を、前記流入口の下縁付近の高さ位置に配置させるように、前記支持面を上下動可能に配設され、さらに、

前記支持面が、前記リフトの最上昇時に、前記流入口と左右の前記隣接エリアとにわたる前側に、前記後縁を配置させて、支持した遊技球を、前記流入口若しくは左右の前記隣接エリアに転動可能に、後下がりで、かつ、左右に揺動可能に支持するように、下方へ凹む凹面として、形成されていることを特徴とするパチンコ遊技機。

【請求項 2】

前記支持面が、前記流入口の前側の部位に、左右方向に沿う鉛直断面で最も低く凹む中央底部を設け、該中央底部から左右両側に離れるに従って高くなるような凹面として、形成されていることを特徴とする請求項 1 に記載のパチンコ遊技機。

【請求項 3】

前記支持面の凹面が、前記中央底部の後縁側を最も低く凹ませるすり鉢状に形成されていることを特徴とする請求項 2 に記載のパチンコ遊技機。

【請求項 4】

前記リフトの最下降時の前記支持面の前側における前記下ステージの前後の部位に、前記下ステージから落下させて前記排出路を構成する前下がりの傾斜面と、遊技球を前記リフトの支持面側に案内可能な後下がりの案内面と、が配設されていることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 3 のいずれか 1 項に記載のパチンコ遊技機。

【請求項 5】

前記リフトが、前記支持面上で支持した遊技球を落下させない範囲の振幅で上下若しくは左右に振動しつつ、上昇するように配設されていることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 4 のいずれか 1 項に記載のパチンコ遊技機。

【請求項 6】

前記入賞補助通路における前記流出口側の部位が、前記リフトの前記支持面の下方に配設されるとともに、前記リフト側に延びる分岐通路を設けて、配設され、

前記リフトが、最上昇位置への配置時に、前記下ステージから前記リフト側に転動する遊技球を前記分岐通路を経て前記入賞補助通路へ流入可能に開口し、かつ、下降時に前記下ステージの下方に隠れる第 2 の流入口を、配設させていることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 5 のいずれか 1 項に記載のパチンコ遊技機。

【請求項 7】

前記入賞補助通路における前記流出口側の部位が、前記リフトの前記支持面の下方で、前後方向に貫通するように配設され、

前記リフトが、下部に前記入賞補助通路の内周側に延びて、前記入賞補助通路内の遊技球を減速させて前記流出口側へ案内可能に、遊技球に接触する干渉部、を備えて構成されていることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 6 のいずれか 1 項に記載のパチンコ遊技機。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、センター役物が上ステージから下ステージに転動する遊技球を下ステージから上ステージに上げるリフトを備えて構成されているパチンコ遊技機に関する。

10

【背景技術】**【0002】**

従来、パチンコ遊技機では、遊技球を下ステージから上ステージに上げるようなリフトを、センター役物に設けたものが知られている（例えば、特許文献 1 参照）。

【0003】

このセンター役物では、上ステージの左右方向の中央付近に、入賞補助通路の流入口を配置させ、流入口の左右両側の部位に、リフトを配置させていた。左右のリフトは、それぞれ、遊技球を上面側で支持する支持面が、左右方向の両側を低くして、左右方向の中央に、前後に沿った稜線とするような山形状の突起を設けて構成されていた。なお、入賞補助通路は、流出口を下ステージ下方に位置した入賞口の上方で開口させて、流入口から流入した遊技球を、入賞口へ入り易くするように流出口から流出させるものである。この入賞口は、デジパチ等での抽選を開始する始動入賞口等であり、入球によって遊技者に特典を与えることとなる。

20

【0004】

そして、上ステージは、左右のリフトのそれぞれの左右両側における流入口側のエリアを、流入口側に向かって低くなる流入案内面とし、左右のリフトのそれぞれの左右両側における流入口から離れた外側のエリアを、上ステージの左右両縁側に向けて低くなる傾斜面としていた。また、下ステージは、上ステージの左右の縁側に上面を連ならせて、左右方向の中央付近を下方へ低くし、左右方向の中央付近を、センター役物の下方へ落下させる排出路としていた。さらに、センター役物の周囲の飾り枠体におけるステージ部の上方側には、入球した遊技球を下ステージ上に転動可能に案内するワープ通路の入口が、開口していた。

30

【0005】

既述の左右のリフトは、最下降時に、下ステージを転動する遊技球を支持面に受け入れ可能とし、最上昇時に、支持面の左右の縁を、上ステージにおける流入案内面と傾斜面とに連ならせるように、配設されていた。

【0006】

そして、遊技球は、下ステージを転動中に、最下降時のリフトの支持面に受け入れられれば、リフトにより上昇し、リフトの最上昇時において、支持面上の突起より流入案内側に載っていれば、流入案内面に転動して流入口に流入し、あるいは、支持面上の突起より傾斜面側に載っていれば、傾斜面側に転動して、上ステージから下ステージに転動することとなる。この下ステージに転動した遊技球は、再度、最下降時のリフトの支持面に受け入れられれば、支持面で上昇して、突起で振り分けられ、そして、流入口側に転動するか、若しくは、戻しルートを通るように下ステージ側に転動する。あるいは、下ステージに転動した遊技球が、リフトの支持面に受け入れられなければ、排出路から排出することとなっていた。

40

【0007】

このようなパチンコ遊技機では、遊技球が、リフトの支持面に載って、入賞補助通路の流入口に入球するか、あるいは、下ステージに転動するかで、遊技者にハラハラドキドキ

50

させることができた。

【特許文献 1】特開 2 0 0 5 - 1 3 1 0 6 0 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0 0 0 8】

しかし、従来のパチンコ遊技機では、遊技球がリフトの支持面に載った時点で、突起で振り分けられてしまい、遊技者が、支持面上昇前に、突起より流入案内面側に載っていれば、流入案内面側に転動することが分かり、また、支持面上の突起より傾斜面側に載っていれば、傾斜面側に転動してしまうことが分かっている、一層、遊技者にハラハラドキドキさせる趣向性に関し、改善の余地があった。

10

【0 0 0 9】

本発明は、上述の課題を解決するものであり、遊技球を流入口付近までリフトにより上昇させる際に、一層、遊技の趣向性を向上させることができるパチンコ遊技機を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0 0 1 0】

本発明に係るパチンコ遊技機は、センター役物が、
遊技球をそれぞれ転動可能な上ステージと上ステージの下方に配置される下ステージとの少なくとも二つのステージを有するステージ部と、
遊技球を、上ステージに開口させた流入口から流入させ、流出口から入賞口へ向けて流出可能とする入賞補助通路と、
遊技球を、上面側の支持面上に載せて下ステージ側から上ステージ側まで上昇可能として、上下往復移動可能なリフトと、
流入口に流入しなかった遊技球を、上ステージから下ステージに戻し可能な戻しルートと、

20

下ステージに配置されて、下ステージの前縁から遊技球をセンター役物外へ排出可能な排出路と、

ステージ部に遊技球を入球させる入球口と、
を備えて構成されるパチンコ遊技機であって、
リフトが、

30

支持面の左右方向の幅寸法を、流入口の左右方向の開口寸法と、上ステージの戻しルートにおける流入口の左右にそれぞれ隣接する少なくとも遊技球 1 個の直径寸法分の隣接エリアの左右方向の幅寸法と、を合わせた寸法以上として、流入口の前側に配置されるときにも、

最下降時の支持面を、下ステージを転動する遊技球を受け入れ可能な高さ位置に配置させ、かつ、最上昇時の支持面の後縁側を、流入口の下縁付近の高さ位置に配置させるように、支持面を上下動可能に配設され、さらに、

支持面が、リフトの最上昇時に、流入口と左右の隣接エリアとにわたる前側に、後縁を配置させて、支持した遊技球を、流入口若しくは左右の隣接エリアに転動可能に、後下がり、かつ、左右に揺動可能に支持するように、下方へ凹む凹面として、形成されていることを特徴とする。

40

【0 0 1 1】

本発明に係るパチンコ遊技機では、入球口を経てステージ部上に転動した遊技球がリフトに載れば、その遊技球は、左右に揺動可能な凹面からなる支持面上に載って上昇することから、支持面に載った時点のリフトの上昇前から、リフトの上昇途中を含めて、最上昇位置の上ステージ側の流入口若しくは隣接エリアに転動するまで、支持面上を左右に揺動可能となる。そして、支持面の左右方向の幅寸法が、流入口の左右方向の開口寸法と、上ステージの戻しルートにおける流入口の左右にそれぞれ隣接する少なくとも遊技球 1 個の直径寸法分の隣接エリアの左右方向の幅寸法と、を合わせた寸法以上としている。すなわち、支持面を左右に揺動する遊技球は、流入口に流入可能な位置を中心として、戻しルー

50

トとなる左右の隣接エリアに転動する可能性のある範囲まで、左右に大きく揺動するため、リフトが最上昇位置に上昇するまで、遊技球が流入口若しくは左右の隣接エリアのどちらに転動するかと、遊技者にハラハラドキドキさせることとなる。

【 0 0 1 2 】

したがって、本発明に係るパチンコ遊技機では、遊技球を、上昇時のリフトの支持面上で、流入口に流入しない隣接エリアを含めて、流入口の左右方向の開口寸法を超えて、左右に揺動可能としていることから、リフトが遊技球を支持面に受け入れた後から流入口付近まで上昇する際の遊技の趣向性を、向上させることができる。

【 0 0 1 3 】

そして、支持面は、流入口の前側の部位に、左右方向に沿う鉛直断面で最も低く凹む中央底部を設け、中央底部から左右両側に離れるに従って高くなるような凹面として、形成することが望ましい。このような構成では、リフトの支持面を、前後のスペースを小さく抑制しつつ、極力、遊技球の大きな左右の揺動を確保できるように構成できる。また、このような凹面の支持面では、流入口の左右両側に隣接エリアを設けて、遊技球が、支持面上を左右に揺動しても、中央底部に収束するように留まり易く、その結果、支持面上で支持する遊技球の中央底部から流入口に入る確率を高くできて、遊技の趣向性を一層向上させることができる。

【 0 0 1 4 】

さらに、この場合、支持面の凹面を、中央底部の後縁側を最も低く凹ませるすり鉢状に形成すれば、遊技球を留まり易くした中央底部が、さらに中央底部の後縁側で遊技球を留め易くすることとなって、遊技球を支持した支持面が、リフトの上昇に伴った流入口の下縁付近に到達した際、中央底部の後縁側から遊技球を流入口に流入させ易くなり、支持面で支持した遊技球を流入口に流入させる確率を高くできて、遊技の趣向性を一層向上させることができる。

【 0 0 1 5 】

また、本発明に係るパチンコ遊技機では、リフトの最下降時の支持面の前側における下ステージの前後の部位に、下ステージから落下させて排出路を構成する前下がりの傾斜面と、遊技球をリフトの支持面側に案内可能な後下がりの案内面と、を配設することが望ましい。

【 0 0 1 6 】

このような構成では、下ステージを遊技球が転動する際、遊技球が、案内面を経てリフトに載るか、あるいは、排出路を経て下ステージから落下するかと、遊技者にハラハラドキドキさせることとなって、一層、遊技の趣向性を向上させることができる。

【 0 0 1 7 】

さらに、リフトは、支持面上で支持した遊技球を落下させない範囲の振幅で上下若しくは左右に振動しつつ、上昇するように配設してもよい。このような構成では、支持面上で支持されて上昇する遊技球が、単に、時計の振り子のように左右に揺動するだけでなく、微妙に振動しつつ支持面上を左右に揺動するため、流入口に流入可能か否かと、遊技者に一層ハラハラドキドキさせることができる。

【 0 0 1 8 】

また、本発明に係るパチンコ遊技機では、入賞補助通路における流出口側の部位を、リフトの支持面の下方に配設するとともに、リフト側に延びる分岐通路を設けて、配設し、リフトには、最上昇位置への配置時に、下ステージからリフト側に転動する遊技球を分岐通路を経て入賞補助通路へ流入可能に開口し、かつ、下降時に下ステージの下方に隠れる第2の流入口を、配設させてもよい。

【 0 0 1 9 】

このような構成では、上ステージ側に開口した第1の流入口への流入を逃した遊技球を、リフトの上昇時に開口する第2の流入口に流入させて、入賞補助通路の流出口から入賞口に入球させることができ、遊技者に、入賞補助通路への遊技球の流入の期待感を増進させることができる。また、この第2流入口は、常時開口している訳ではなく、リフトの下

10

20

30

40

50

降に伴って閉口するものであって、リフトの上下往復移動に伴って開閉を繰り返すことから、第2流入口に入るか否かと遊技者にハラハラドキドキさせることができ、一層、遊技の趣向性を向上させることができる。

【0020】

さらに、本発明に係るパチンコ遊技機では、入賞補助通路における流出口側の部位は、リフトの支持面の下方で、前後方向に貫通するように配設し、リフトには、下部に、入賞補助通路の内周側に延びて、入賞補助通路内の遊技球を減速させて流出口側へ案内可能に、遊技球に接触する干渉部、を設けることが望ましい。

【0021】

このような構成では、入賞補助通路を通過する遊技球が、干渉部に接触して減速するため、流出口から流出する遊技球が、入賞口への入球確率を高めることができ、このため、流入口の存在感を高めて、流入口へ入るか否かと一層遊技者にハラハラドキドキさせることができ、遊技の趣向性を向上させることができる。そしてまた、このような構成では、流入口へ流入した遊技球に接触させて遊技球を減速させる干渉部を、支持面で支持した遊技球を流入口に流入可能に上下動を繰り返すリフトに、設けており、別途、干渉部を配設しなくともよく、部品点数を少なく構成できる。そして特に、干渉部が、上下動を繰り返すリフトに配設されていれば、干渉部の遊技球に接触するタイミングや接触の程度を、リフトの上下動に伴って種々設定でき、遊技球の減速の有無や減速の程度の調整や設定を、容易に行うことができる。例えば、干渉部が、リフトの上下動に伴って、通過時の遊技球に対する減速状態を変動可能に、遊技球に対する接触抵抗を上下にわたって変化させるように、配設されていれば、遊技球の減速の有無や減速の程度の調整や設定を、容易に行うことができる。また例えば、干渉部を、遊技球の前面側を受け止め可能に構成して、リフトの下降時に、干渉部を遊技球の前面側から離脱させるように下降移動させたり、あるいは、リフトの上昇時に、干渉部を遊技球の前面側から離脱させるように上昇移動させる構成とすれば、遊技球を、干渉部で受け止めて停止させるように減速させ、その後、流出口側へ転動させることができ、流出口から流出する遊技球の速度を、入賞口への入賞確率をより高めるように、安定させることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0022】

以下、本発明の一実施形態を図面に基づいて説明すると、実施形態のパチンコ遊技機（以下、単に遊技機と略す）1では、図1に示すように、遊技盤面2における外側レール3と内側レール4とで囲まれた遊技領域5を備え、遊技領域5には、その中央に、飾り枠体13に囲まれてセンター役物16が配設されている。センター役物16の後方には、液晶等で所定の図柄を表示する図柄表示装置14が配設されている。

【0023】

遊技領域5の飾り枠体13の周囲には、図示しない釘、風車6、普通入賞口7、賞球の無い入賞口8、始動入賞口9、電動チューリップ10、大入賞口11、アウト口12等の公知の部材が配設されて、図示しないハンドルを操作し、遊技球を外側レール3と内側レール4との間から遊技領域5に打ち出せば、遊技球は、普通入賞口7、賞球の無い入賞口8、始動入賞口9、電動チューリップ10、大入賞口11、アウト口12のいずれかに入球する。そして、遊技球が、普通入賞口7や開放時の大入賞口11に入賞すれば、所定数の遊技球を獲得でき、入賞口8に入賞すれば、抽選により電動チューリップ10を所定時間若しくは所定回数開放させることとなる。また、遊技球が、始動入賞口9や開放時の電動チューリップ10に入賞すれば、抽選により、大当たり、中当たり、小当たり等の当たりや外れが決定され、当たりとなれば、大入賞口11を、その当たりに応じて開放時間、開放回数、入賞個数等を制限して、開放することとなる。これらの作動や遊技フローは、公知のものであり、遊技盤面2の背面側に配置された図示しないメイン制御基板が、入賞時のセンシングに基づき、各種の作動信号を出力し、そして、メイン制御基板からの当たりや外れ等の抽選結果に基づいて、図示しないサブ制御基板が、所定数の遊技球を払い出したり、所定のランプやスピーカ等を作動させつつ、所定の演出を図柄表示装置14に表

示することとなる。

【 0 0 2 4 】

そして、飾り枠体 1 3 で囲まれた実施形態のセンター役物 1 6 は、図 2 に示すように、ステージ部 1 9、ワープ通路 1 7、入賞補助通路 4 9、及び、リフト 6 0 を配設させて構成されている。ステージ部 1 9 は、飾り枠体 1 3 の下枠 1 3 a 側に配置されて、遊技球 B を上面側でそれぞれ転動可能な上ステージ 2 0 と上ステージ 2 0 の下方に配置される下ステージ 3 2 との少なくとも二つのステージ 2 0, 3 2 を有して構成されている。なお、実施形態では、図柄表示装置 1 4 に近い後部側に上ステージ 2 0 が配設され、下ステージ 3 2 が、前部側に配置されている。

【 0 0 2 5 】

ワープ通路 1 7 は、図 1, 2 に示すように、ステージ部 1 9 への遊技球 B の入球口となるもので、飾り枠体 1 3 におけるステージ部 1 9 の上方側の左枠 1 3 b 側で開口した入口 1 7 a から入る遊技球 B を、ステージ部 1 9 の上ステージ 2 0 の左縁側に転動可能に案内するように、配設されている。

【 0 0 2 6 】

入賞補助通路 4 9 は、図 1, 2 に示すように、流出口 5 1 を下ステージ 3 2 の下方に位置した始動入賞口 9 の上方で開口させ、また、上ステージ 2 0 の左右方向の中央付近に流入口 5 0 を開口させて構成されて、流入口 5 0 から流入した遊技球 B を、自重により、流出口 5 1 まで転動させ、流出口 5 1 から、始動入賞口 9 へ流出可能として、始動入賞口 9 への入賞を補助するために配設されている。この入賞補助通路 4 9 は、図 6 に示すように、上ステージ 2 0 の左右方向の中央付近に配置された流入口 5 0 から、上ステージ 2 0 の背面、下方、さらに、下ステージ 3 2 の左右方向の中央の下方に位置する流出口 5 1 まで、前後方向に沿った略 L 字状の通路として構成されている。そして、実施形態の場合には、入賞補助通路 4 9 における流出口 5 1 側の前後方向に沿って前下がり直線状とした流出側通路 5 2 には、上方のリフト 6 0 側に延びる分岐通路 5 3 が配設されている。この分岐通路 5 3 は、リフト 6 0 に設けた後述する第 2 流入口 6 9 から流入した遊技球 B を、分岐通路 5 3 に流入させて、さらに、分岐通路 5 3 を経て流出側通路 5 2 に流入させ、そして、流出口 5 1 から始動入賞口 9 側へ流出可能に構成されている。ちなみに、実施形態の場合、流出側通路 5 2 の上部側の周壁がリフト 6 0 により構成されて、リフト 6 0 の上昇に伴って第 2 流入口 6 9 が上方に移動しつつ開口する際に、第 2 流入口 6 9 から流出側通路 5 2 までのリフト 6 0 内を通過する部位として、分岐通路 5 3 が上下方向に沿って長く形成される構成としている。

【 0 0 2 7 】

そして、ステージ部 1 9 の上ステージ 2 0 は、図 2, 3 に示すように、上面側で遊技球 B を転動可能な上転動面 2 1 を備え、上転動面 2 1 は、左右方向の中央付近となる中央部 2 2 を高くし、中央部 2 2 から左右に延びる左面部 2 7 と右面部 2 8 とを、それぞれ、中央部 2 2 から離れるに従って低くし、さらに、最も低い底部 2 7 a, 2 8 a から外縁 2 7 b, 2 8 b 側にかけて、徐々に高くするように構成されている。ワープ通路 1 7 の出口 1 7 b は、中央部 2 2 側に向いて、左面部 2 7 の外縁 2 7 b 付近に配設されている。そして、中央部 2 2 は、流入口 5 0 の前側に位置する前側部 2 3 に、流入口 5 0 への流入を補助するように流入口 5 0 の開口面積を前方側に広げる案内口 2 3 a を設けて構成されている。案内口 2 3 a の前側には、案内口 2 3 a への遊技球 B の後方側への転動を僅かに邪魔するように、小さな突起 2 3 b が設けられている。

【 0 0 2 8 】

また、上ステージ 2 0 の後縁側には、図 1, 2 に示すように、図柄表示装置 1 4 側との境界として、背面壁 3 0 が左右方向に沿って上方に突設され、背面壁 3 0 の左右方向の中央に流入口 5 0 が開口している。この流入口 5 0 は、案内口 2 3 a とともに、左右方向の開口寸法 W H を、一個分の遊技球 B の直径寸法より僅かに大きな寸法（図 7 の A 参照）としている。

【 0 0 2 9 】

10

20

30

40

50

また、上ステージ 20 の上転動面 21 の前縁側には、図 2 に示すように、底部 27a , 28a より外縁 27b , 28b 側のエリアに、下ステージ 32 と区画するための仕切壁 40 , 41 が左右方向に沿って配設されている。また、底部 27a , 28a 間の上転動面 21 の前縁側には、下降時のリフト 60 側への遊技球 B の落下を防止する突条 26 が突設されている。さらに、突条 26 の前方側におけるリフト 60 の配設部位を除いたエリアでは、上ステージ 20 と下ステージ 32 とを区画する区画壁 39 が、上転動面 21 より上方に突出するように配設されている。

【0030】

ステージ部 19 の下ステージ 32 は、図 2 , 4 に示すように、上面側で遊技球 B を転動可能な下転動面 33 を備え、下転動面 33 は、左右方向の中央付近となる中央部 34 を低くし、中央部の左右両側を高くするように構成され、左右の外縁 33a , 33b に至る途中で、上ステージ 20 の上転動面 21 における左面部 27 と右面部 28 との底部 27a , 28a 付近から、上転動面 21 と略面一の同じ曲面として構成されている。中央部 34 の後方側には、区画壁 39 の収納孔 39a に収納された状態から上下往復移動を繰り返すリフト 60 が配設されている。そして、中央部 34 には、図 4 や図 6 の A に示すように、前部側に配置される二つの前下がり傾斜面 36 , 36 と、後部側に配置されて遊技球 B をリフト 60 の支持面 61 側に案内可能な後下がりの一つの案内面 35 と、が配設されている。二つの傾斜面 36 , 36 は、遊技球 B を下ステージ 32 の前縁から飾り枠体 13 (センター役物 16) 外の下方向へ自由落下させて排出する排出路 44 を構成するものであり、二つの傾斜面 36 , 36 の間には、下方の始動入賞口 9 に入賞するように自由落下することを邪魔するように、小さな突起 37 が形成されている。また、下転動面 33 の前縁側には、傾斜面 36 , 36 と突起 37 とが配設されたエリアを除いて、すなわち、排出路 44 のエリアを除いて、遊技球 B の前方側への落下を防止可能な突条 42 , 43 が、小さな突出量として、上方に突設されている。

【0031】

また、上ステージ 20 の底部 27a , 28a の前方側には、仕切壁 40 , 41 と区画壁 39 との間に、上転動面 21 から下ステージ 32 の下転動面 33 に遊技球 B を転動させる連通路 47 , 47 が形成されている。

【0032】

そして、遊技球 B が、図 4 に示すように、リフト 60 の支持面 61 で支持されて上転動面 21 の中央部 22 まで持ち上げられ、流入口 50 に流入しなかった場合には、その遊技球 B は、図 2 に示すように、左面部 27 若しくは右面部 28 を底部 27a , 28a 付近まで転動し、連通路 47 , 47 を経て、底部 27a , 28a から下ステージ 32 の下転動面 33 に転動し、そして、中央部 34 のリフト 60 付近まで転動し、排出路 44 から排出されなければ、再度、リフト 60 で持ち上げられて循環するようなループ動作する場合が生ずる。すなわち、左面部 27 や右面部 28 は、下転動面 33 とともに、連通路 47 , 47 を利用して、遊技球 B をループ動作で戻すような戻しルート 46 を構成している。

【0033】

リフト 60 は、図 3 ~ 5 に示すように、遊技球 B を、上面側の支持面 61 上に載せて下ステージ 32 側から上ステージ 20 側まで上昇可能として、上下往復移動を繰り返すものであり、実施形態の場合には、飾り枠体 13 の内部に配設された一つの電動モータ 76 を駆動源とした駆動機構 75 により、上下往復移動を繰り返している。

【0034】

駆動機構 75 は、簡単に説明すると、図 8 に示すように、電動モータ 76 の駆動軸 76a に設けた偏心カム 77、左右方向に往復移動可能に飾り枠体 13 内で支持されたカムレバー 78 , 78R、上下方向に回動可能に飾り枠体 13 内で支持されたクランク 80 , 80R、リンク 79 , 79R を備えて構成されている。そして、駆動機構 75 の作動時には、電動モータ 76 の駆動軸 76a が回転駆動することにより、偏心カム 77 のピン 77a を摺動させる摺動溝 78a を有したカムレバー 78 が、左右方向に往復移動し、カムレバー 78 の先端 78b とクランク 80 の下アーム 80b の先端とに回転自在に軸支されたり

ンク 79 を介して、クランク 80 を軸支部 80 a 回りで、上下方向に揺動させる。そして、クランク 80 が上下に揺動すれば、クランク 80 の上アーム 80 c の先端のピン 80 d を摺動溝部 67 内で左右に摺動させていたリフト 60 が、上下往復移動することとなる。なお、リフト 60 の右側のクランク 80 R、リンク 79 R、及び、カムレバー 78 R は、電動モータ 76 の駆動力が直接作用しないものの、左側のクランク 80、リンク 79、及び、カムレバー 78 と、略左右対称形に配設されて同様な動作を行って、リフト 60 をバランス良く上下往復移動させるように、配設されている。また、図 8 に示す符号 82 の部材は、カムレバー 78、78 R の左右方向の往復移動を支持する支持ガイドであり、符号 83 の部材は、クランク 80、80 R を回動自在に支持する支持軸であり、これらの支持ガイド 82 や支持軸 83 は、飾り枠体 13 の内部の部位に配設固定されている。さらに、リフト 60 は、区画壁 39 の収納孔 39 a の内周面 39 b に案内されて（図 7 の A 参照）、上下往復移動することとなる。

10

【0035】

リフト 60 は、図 8 に示すように、略長方形板状として、上面の全域を支持面 61 として構成されている。そして、支持面 61 の左右方向の幅寸法 W_L は、図 7 の A に示すように、流入口 50 の左右方向の開口寸法 W_H と、上ステージ 20 の戻しルート 46 における流入口 50 の左右にそれぞれ隣接する少なくとも遊技球 B の 1 個の直径寸法分とした隣接エリア 24、25 の左右方向の幅寸法 W_A 、 W_A と、を合わせた寸法以上として、流入口 50 の前側に配置されている。なお、実施形態の支持面 61 の左右方向の幅寸法 W_L は、遊技球 B の直径寸法の約 4 倍の寸法に設定されている。また、支持面 61 の前後方向の奥行寸法 D_L は、上転動面 21 や下転動面 33 の奥行寸法 D_R と略等しく、遊技球 B の 1 個の直径寸法より僅かに大きな寸法としている（図 6 の A 参照）。

20

【0036】

また、リフト 60 は、図 6 の A に示すように、最下降時の支持面 61 の前縁 61 a を、下ステージ 32 の下転動面 33 の中央部 34 を転動する遊技球 B を受け入れ可能な高さ位置に配置させ、かつ、図 6 の B に示すように、最上昇時の支持面 61 の後縁 61 b 側を、流入口 50 の下縁付近の高さ位置に配置させるように、支持面 61 を上下動可能に配設されている。なお、実施形態の場合、支持面 61 は、最下降時の前縁 61 a を、下ステージ 32 の中央部 34 の案内面 35 に連なるように、設定され、最上昇時の支持面 61 の後縁 61 b は、実施形態の場合、突条 26 を僅かに超えた上方に配置されるように設定されている。

30

【0037】

そして、リフト 60 は、図 6 ~ 8 に示すように、支持面 61 が、リフト 60 の最上昇時に、流入口 50 と左右の隣接エリア 24、25 とにわたる前側に、後縁 61 b を配置させて、支持した遊技球 B を、流入口 50 若しくは左右の隣接エリア 24、25 に転動可能に、後下がりで、かつ、左右に揺動可能に支持するように、下方へ凹む凹面として、形成されている。さらに、実施形態の場合、支持面 61 が、流入口 50 の前側の部位に、左右方向に沿う鉛直断面で最も低く凹む中央底部 62 を設け、中央底部 62 から左右両側に離れる左縁部 63 や右縁部 64 に従って高くなるような凹面として、形成されている。実施形態では、支持面 61 は、円弧の曲面の一部から構成され、その半径寸法 R_L （図 7 の A 参照）は、遊技球 B の直径寸法の 20 ~ 40 倍程度の 200 ~ 400 mm 程度としている。なお、実施形態では、凹面自体は、支持面 61 の左右両縁まで形成されていないが、凹面上を左右の揺動する遊技球 B は、球形状であって、凹面上を左右に揺動すれば、支持面 61 の左右の略幅寸法 W_L 分、揺動可能となる。

40

【0038】

さらに、リフト 60 には、図 4、5 に示すように、最上昇位置への配置時に、下ステージ 32 の下転動面 33 における中央部 34 の案内面 35 からリフト 60 側に転動する遊技球 B を分岐通路 53 を経て入賞補助通路 49 の流出側通路 52 へ流入可能に開口する第 2 流入口 69 が、開口している。この第 2 流入口 69 は、図 2、3 に示すように、リフト 60 の下降時には、下ステージ 32 の下転動面 33 の案内面 35 の下方に隠れるように形成

50

され、実施形態の場合、上縁側を半円形に開口させて、リフト60の下縁まで開口させた長穴状としている。そのため、実施形態のリフト60は、正面視として、上面を支持面61とした天井壁部65と、天井壁部65の左右両側から第2流入口69を間にして下方に延びる左右の支持脚部66、66と、を備えた門型(逆U字形)に形成されている(図8参照)。この第2流入口69の左右方向の開口寸法は、流入口50の開口寸法WHと等しく設定されて、一個分の遊技球Bの直径寸法より僅かに大きな寸法としている(図7のC参照)。なお、リフト60を上下動させる駆動機構75のクランク86、86Rのピン80dが摺動する摺動溝部67は、天井壁部65の後面側に設けられている。

【0039】

さらに、リフト60の下部側における左右の支持脚部66、66の相互の対向部位には、図6～8に示すように、略半円板形状の干涉部71、71が形成されている。各干涉部71は、リフト60を形成した合成樹脂等の形成材料で一体的に形成されて、相互に接近するように配設されている。そして、干涉部71、71は、入賞補助通路49の周壁に設けられたスリット54を経て、流出側通路52の内周側に延びるように配設されて、流出側通路52内を通過する遊技球Bを減速させて流出口51側へ案内可能に、遊技球Bに接触するように配設されている。この干涉部71は、リフト60の最上方位位置の配置時から、下転動面33の案内面35から上方に開口している第2流入口69が、開口面積を略半分程度まで狭める高さ位置まで下降する際(図5、7のC、B参照)、流出側通路52の左右両側から流出側通路52の中心側へ延びるように配設されている。そして、流出側通路52を通過する遊技球Bが、干涉部71、71に接触すれば、停止するまで減速されて、リフト60の更なる下降に伴い(図5、7のC、B、A参照)、干涉部71、71が遊技球Bの前面側から下方に移動して、遊技球Bは、減速された状態で流出口51側に転動し、落下する放物線を始動入賞口9へ入賞し易い軌跡として、始動入賞口9に入賞する確率を高めて、流出口51から流出(落下)することとなる(図6のB参照)。

【0040】

実施形態の遊技機1の作動を説明すれば、電源オンとともに、リフト60が、駆動機構75の作動によって上下往復移動を繰り返すこととなり、そして、遊技時、ワープ通路17の入口17aに遊技球Bが入球されれば、遊技球Bは、出口17bから上ステージ20の上転動面21の左面部27を中央部22側に駆け上がるように転動する(図3、4参照)。そして、遊技球Bが、流入口50に流入しなければ、その後、例えば、右面部28の底部28aから下ステージ32の下転動面33に転動し、中央部34のエリアに到達して、案内面35上に載り、その際、リフト60が最下降時に配置されていれば、支持面61上に案内されて、リフト60とともに上昇する。この時、図5のA、B、Cや図7のA、B、Cに示すように、リフト60に載った遊技球Bは、左右に揺動可能な凹面からなる支持面61上に載って上昇することから、支持面61に載った時点のリフト60の上昇前から、リフト60の上昇途中を含めて、最上昇位置の上ステージ20側の流入口50若しくは隣接エリア24、25に転動するまで、支持面61上を左右に揺動可能となる。

【0041】

そして、支持面61の左右方向の幅寸法WLが、流入口50の左右方向の開口寸法WHと、上ステージ20の戻しルート46における流入口50の左右にそれぞれ隣接する少なくとも遊技球1個の直径寸法分の隣接エリア24、25の左右方向の幅寸法WA、WAと、を合わせた寸法以上としている。すなわち、支持面61を左右に揺動する遊技球Bは、流入口50に流入可能な位置を中心として、戻しルート46となる左右の隣接エリア24、25に転動する可能性のある範囲まで、左右に大きく揺動するため、リフト60が最上昇位置に上昇するまで、遊技球Bが流入口50若しくは左右の隣接エリア24、25のどちらに転動するかと、遊技者にハラハラドキドキさせることとなる。

【0042】

したがって、実施形態の遊技機1では、遊技球Bを、上昇時のリフト60の支持面61上で、流入口50に流入しない隣接エリア24、25を含めて、流入口50の左右方向の開口寸法WHを超えて、左右に揺動可能としていることから、リフト60が遊技球Bを支

10

20

30

40

50

持面 6 1 に受け入れた後から流入口 5 0 付近まで上昇する際の遊技の趣向性を、向上させることができる。

【 0 0 4 3 】

さらに、実施形態では、支持面 6 1 が、流入口 5 0 の前側の部位に、左右方向に沿う鉛直断面で最も低く凹む中央底部 6 2 を備え、中央底部 6 2 から左右両側に離れる左縁部 6 3 や右縁部 6 4 に向かうに従って高くなるような凹面として、形成されている。そのため、このような凹面の支持面 6 1 では、図 6 に示すように、リフト 6 0 の支持面 6 1 を、前後のスペースを小さく抑制しつつ、極力、遊技球 B の大きな左右の揺動を確保できるように構成できる。また、このような凹面の支持面 6 1 では、流入口 5 0 の左右両側に隣接エリア 2 4 , 2 5 を設けて、遊技球 B が、支持面 6 1 上を左右に揺動しても、中央底部 6 2 に収束するように留まり易く、その結果、支持面 6 1 上で支持する遊技球 B の中央底部 6 2 から流入口 5 0 に入る確率を高くできて、遊技の趣向性を一層向上させることができる。

10

【 0 0 4 4 】

なお、上記の作用効果を高めるために、図 9 ~ 1 1 示す実施形態の変形例のリフト 6 0 A のように、支持面 6 1 A を構成してもよい。この支持面 6 1 A は、その凹面が、中央底部 6 2 の後縁 6 2 a (6 1 b) 側を最も低く凹ませるすり鉢状に形成されている。このような支持面 6 1 A では、遊技球 B を留まり易くした中央底部 6 2 が、さらに中央底部 6 2 の後縁 6 2 a 側で遊技球 B を留め易くすることとなって、遊技球 B を支持した支持面 6 1 A が、リフト 6 0 A の上昇に伴った流入口 5 0 の下縁付近に到達した際、中央底部 6 2 の後縁 6 2 a 側から遊技球 B を流入口 5 0 に流入させ易くなり、支持面 6 1 A で支持した遊技球 B を流入口 5 0 に流入させる確率を高くできて、遊技の趣向性を一層向上させることができる。

20

【 0 0 4 5 】

なお、上記の点を考慮しなければ、円弧状やすり鉢状に下方へ凹む凹面でなく、左右方向の中央付近を、左縁部 6 3 や右縁部 6 4 から下方へ凹ませるとともに、後下がりに傾斜した状態の平面状の部位とするような凹面として、支持面 6 1 を構成してもよい。

【 0 0 4 6 】

また、実施形態の遊技機 1 では、リフト 6 0 の最下降時の支持面 6 1 の前側における下ステージ 3 2 の下転動面 3 3 における中央部 3 4 の前後の部位に、下ステージ 3 2 から下方の始動入賞口 9 側に自由落下させる排出路 4 4 を構成する前下がりの傾斜面 3 6 , 3 6 と、遊技球 B をリフト 6 0 の支持面 6 1 側に案内可能な後下がりの案内面 3 5 と、が配設されている (図 4 , 6 参照) 。そのため、下ステージ 3 2 の下転動面 3 3 を遊技球 B が転動する際、遊技球 B が、案内面 3 5 を経てリフト 6 0 に載るか、あるいは、排出路 4 4 を経て下ステージ 3 2 から落下するかと、遊技者にハラハラドキドキさせることとなって、一層、遊技の趣向性を向上させることができる。

30

【 0 0 4 7 】

さらに、図 1 2 , 1 3 に示す実施形態の変形例のリフト 6 0 B のように、支持面 6 1 上で支持した遊技球 B を落下させない範囲の振幅で上下若しくは左右に振動しつつ、上昇するように配設してもよい。このリフト 6 0 B では、支持脚部 6 6 B , 6 6 B の側面に、細かい凹凸部 6 6 a が上下方向に沿って連続的に形成され、区画壁 3 9 B の収納孔 3 9 a の内周面側に、凹凸部 6 6 a に嵌合するような小さな突起 3 9 c が部分的に形成されている。左右の支持脚部 6 6 B , 6 6 B に設けられる凹凸部 6 6 a は、略半ピッチ分、上下にずれ、収納孔 3 9 a の内周面側の突起 3 9 c は同じ高さ位置に配置されている。そのため、リフト 6 0 B の上昇時には、左右の突起 3 9 c , 3 9 c を凹凸部 6 6 a が乗り越える際、左右でタイミングをずらしてリフト 6 0 B が上昇し、その際のタイミングのずれを利用して、リフト 6 0 B が、支持面 6 1 上で支持した遊技球 B を落下させない範囲の振幅で上下若しくは左右に振動しつつ、上昇することとなる。そのため、このような構成では、支持面 6 1 上で支持されて上昇する遊技球 B が、単に、時計の振り子のように左右に揺動するだけでなく、微妙に振動しつつ支持面 6 1 上を左右に揺動するため、流入口 5 0 に流入可

40

50

能か否かと、遊技者に一層ハラハラドキドキさせることができる。

【 0 0 4 8 】

なお、このようなリフトを振動させる構成としては、他に、駆動機構 7 5 の一部に駆動時に断続的な動きとなるような凹凸を設けて、例えば、カムレバー 7 8 , 7 8 R とその周囲の飾り枠体 1 3 の部位とに、あるいは、偏心カム 7 7 のピン 7 7 a とカムレバー 7 8 の摺動溝 7 8 a とに、さらに、クランク 8 0 , 8 0 R のピン 8 0 d とリフト 6 0 の摺動溝部 6 7 とに、対応する凹凸を設けて、支持面 6 1 上で支持した遊技球 B を落下させない範囲の振幅で、リフト 6 0 を上下若しくは左右に振動させつつ、上昇させるように構成してもよい。

【 0 0 4 9 】

また、実施形態の遊技機 1 では、入賞補助通路 4 9 における流出口 5 1 側の流出側通路 5 2 に、リフト 6 0 側に延びる分岐通路 5 3 を設け、そして、リフト 6 0 には、最上昇位置への配置時に、下ステージ 3 2 の下転動面 3 3 の案内面 3 5 からリフト 6 0 側に転動する遊技球 B を分岐通路 5 3 を経て流出側通路 5 2 へ流入可能に開口し、かつ、下降時に下ステージ 3 2 の案内面 3 5 の下方に隠れる第 2 流入口 6 9 が、配設されている。そのため、実施形態では、上ステージ 2 0 側に開口した第 1 の流入口 5 0 への流入を逃した遊技球 B を、リフト 6 0 の上昇時に開口する第 2 流入口 6 9 に流入させて、入賞補助通路 4 9 の流出口 5 1 から始動入賞口 9 に入球させることができ(図 6 の B 参照)、遊技者に、入賞補助通路 4 9 への遊技球 B の流入の期待感を増進させることができる。また、この第 2 流入口 6 9 は、常時開口している訳ではなく、リフト 6 0 の下降に伴って閉口するものであって、リフト 6 0 の上下往復移動に伴って開閉を繰り返すことから、第 2 流入口 6 9 に入るか否かと遊技者にハラハラドキドキさせることができ、一層、遊技の趣向性を向上させることができる。

【 0 0 5 0 】

さらに、実施形態の遊技機 1 では、入賞補助通路 4 9 における流出口 5 1 側の流出側通路 5 2 が、リフト 6 0 の支持面 6 1 の下方で、前後方向に貫通するように配設され、リフト 6 0 には、下部に、入賞補助通路 4 9 の流出側通路 5 2 の内周側に延びて、流出側通路 5 2 内の遊技球 B を減速させて流出口 5 1 側へ案内可能に、遊技球 B に接触する干涉部 7 1 が、配設されている。すなわち、入賞補助通路 4 9 の流出側通路 5 2 を通過する遊技球 B が、干涉部 7 1 に接触して減速するため(図 5 , 7 の C , B 参照)、流出口 5 1 から流出する遊技球 B が、始動入賞口 9 への入球確率を高めることができ、このため、流入口 5 0 , 6 9 の存在感を高めて、流入口 5 0 , 6 9 へ入るか否かと一層遊技者にハラハラドキドキさせることができ、遊技の趣向性を向上させることができる。そしてまた、このような構成では、流入口 5 0 へ流入した遊技球 B に接触させて遊技球 B を減速させる干涉部 7 1 を、支持面 6 1 で支持した遊技球 B を流入口 5 0 に流入可能に上下動を繰り返すリフト 6 0 に、設けており、別途、干涉部 7 1 を配設しなくともよく、部品点数を少なく構成できる。そして特に、干涉部 7 1 が、上下動を繰り返すリフト 6 0 に配設されていれば、干涉部 7 1 の遊技球 B に接触するタイミングや接触の程度を、リフト 6 0 の上下動に伴って種々設定でき、遊技球 B の減速の有無や減速の程度の調整や設定を、容易に行うことができる。

【 0 0 5 1 】

なお、実施形態では、干涉部 7 1 の構成として、リフト 6 0 の最上方位置の配置時から、下転動面 3 3 の案内面 3 5 から上方に開口している第 2 流入口 6 9 が、開口面積をほぼ半分程度まで狭める高さ位置まで下降する際、流出側通路 5 2 の左右両側から流出側通路 5 2 の中心側へ延びるように配設されている(図 5 , 7 の C , B 参照)。そして、流出側通路 5 2 を通過する遊技球 B は、リフト 6 0 の上昇時に、干涉部 7 1 , 7 1 に接触して停止する構成として、リフト 6 0 の下降に伴い、干涉部 7 1 , 7 1 が遊技球 B の前面側から下方に移動して、遊技球 B は、減速された状態で流出口 5 1 側に転動し、落下する放物線を始動入賞口 9 へ入賞し易い軌跡として、始動入賞口 9 に入賞する確率を高めて、流出口 5 1 から流出している。すなわち、リフト 6 0 の最上昇時に、流出側通路 5 2 に干涉部 7

10

20

30

40

50

１，７１を配置させて、リフト６０の最下降時に、干渉部７１，７１を流出側通路５２から離脱させる構成とし、リフト６０の最上昇時に、支持面６１上で支持した遊技球Ｂが、流入口５０に流入して直ちに、流出側通路５２を流出口５１側に転動する際、あるいは、リフト６０の上昇に伴って開口した第２流入口６９から遊技球Ｂが流入しても、それらの遊技球Ｂを干渉部７１，７１が受け止めて、そして、リフト６０の下降に伴って、それらの遊技球Ｂを減速させた状態で流出口５１側に転動でき、リフト６０で持ち上げた遊技球Ｂや第２流入口６９に流入した遊技球Ｂを、始動入賞口９への入賞確率をより高めた安定した速度で、流出口５１から流出させることができる。。

【００５２】

上記の点を考慮しなければ、図１４，１５に示す干渉部７１Ａ、７１Ａのように、リフト６０の最下降時付近において、入賞補助通路４９の周壁のスリット５４を経て流出側通路５２の内周側に侵入して、流出口５１側へ通過する遊技球Ｂを減速させるように停止させ、そして、リフト６０の上昇時、停止させた遊技球Ｂの前面から上方に離脱して、減速させた状態で遊技球Ｂを流出口５１側に転動させるように構成してもよい。

【００５３】

なお、実施形態の干渉部７１は、リフト６０の最下降時の時期付近に流出側通路５２を通過する遊技球Ｂには接触せず、その遊技球Ｂを減速できないように設定されている。また、図１４，１５に示す干渉部７１Ａは、リフト６０の最上昇時の時期付近に流出側通路５２を通過する遊技球Ｂには接触せず、その遊技球Ｂを減速できないように設定されている。

【００５４】

上記の点を改良する場合には、図１６，１７に示すように、リフト６０の最上昇位置付近と最下降位置付近とにおいて、流出側通路５２を通過する遊技球Ｂと接触可能な干渉部７１Ｂ，７１Ｂを、リフト６０に設けてもよい。この干渉部７１Ｂ，７１Ｂは、ある程度の形状保持性を有して弾性変形可能なゴムや合成樹脂から形成される薄肉状のヒレ部７２，７２から構成されている。そして、各ヒレ部７２，７２は、入賞補助通路４９の周壁のスリット５４を経て流出側通路５２内に侵入し、リフト６０が最上昇位置付近と最下降位置付近とに配置される際に、流出側通路５２を通過する遊技球Ｂと接触可能な二つの凸板部７２ａ，７２ｂを備えとともに、凸板部７２ａ，７２ｂ間に、左右のヒレ部７２，７２間に遊技球Ｂの外径寸法より僅かに大きな開口を形成可能な凹部７２ｃを設けて構成されている。

【００５５】

このような干渉部７１Ｂ，７１Ｂでは、流出側通路５２を流出口５１側に通過する遊技球Ｂが、凸板部７２ａ，７２ｂに当たって減速されるように停止され、遊技球Ｂの前面側から凸板部７２ａ，７２ｂが離脱して、遊技球Ｂが減速された状態で、流出口５１側に転動したり、あるいは、遊技球Ｂが、左右の凹部７２ｃ，７２ｃ間をヒレ部７２，７２に接触せずに通過して、減速されずに流出口５１側に転動する。さらに、ヒレ部７２の凸板部７２ａ，７２ｂの一部に接触して、遊技球Ｂが、ヒレ部７２の一部を弾性変形させるように撓ませつつ、減速する程度を少なくして、流出口５１側に転動させることができる。このような干渉部７１Ｂでは、リフト６０の上下往復移動する際のタイミングに応じて、遊技球Ｂの減速の程度を異ならせて、遊技球Ｂを流出口５１側に転動させることができる。

【００５６】

なお、実施形態では、第２流入口６９の下方に干渉部７１を設けた場合を示したが、第２流入口６９を開口させずに、干渉部７１，７１Ａ，７１Ｂを設けてもよい。勿論、干渉部７１，７１Ａ，７１Ｂを設けずに、第２流入口６９を設けるようにリフト６０を構成してもよい。

【００５７】

また、実施形態では、デジパチタイプの遊技機１について説明したが、デジパチタイプ以外のセンター役物のあるハネモノタイプのパチンコ遊技機等に、本発明を適用してもよい。

10

20

30

40

50

【 0 0 5 8 】

さらに、実施形態では、ステージ部 1 9 への遊技球 B の入球が、パイプ状のワープ通路 1 7 からなる入球口を使用して行われる場合を例示したが、単に、飾り枠体 1 3 の内外を貫通する入球口を利用して、ステージ部 1 9 上に遊技球 B を入球させるように構成してもよい。

【 0 0 5 9 】

さらにまた、リフト 6 0 , 6 0 A , 6 0 B 、あるいは、ステージ部 1 9 の中央部 2 2 , 3 4 付近は、内部を通過する遊技球 B を視認できるように、ある程度の透明度を有した合成樹脂材料等からなる透明体（若しくは半透明体）から形成してもよい。

【図面の簡単な説明】

10

【 0 0 6 0 】

【図 1】本発明の一実施形態のパチンコ遊技機における遊技盤面を示す概略正面図である。

【図 2】実施形態のセンター役物を示す左方から見た概略斜視図であり、リフトの最下降時の状態を示す。

【図 3】実施形態のセンター役物を示す右方から見た概略斜視図であり、リフトの最下降時の状態を示す。

【図 4】実施形態のセンター役物を示す右方から見た概略斜視図であり、リフトの上昇時の状態を示す。

【図 5】実施形態のリフト付近の概略正面図であり、最下降位置から最上昇位置まで上昇する状態を順に示す。

20

【図 6】実施形態のリフト付近における図 5 の A の VI - VI 部位に対応する前後方向に沿った概略縦断面図であり、リフトの最下降時と最上昇時との状態を示す。

【図 7】実施形態のリフト付近における図 6 の A の VII - VII 部位に対応する左右方向に沿った概略縦断面図であり、リフトの最下降位置から最上昇位置まで順に上昇する状態を示す。

【図 8】実施形態のリフトとその駆動機構を示す概略斜視図である。

【図 9】実施形態の変形例のリフトの斜視図である。

【図 1 0】図 9 に示すリフトを使用した遊技機のリフト付近の概略正面図であり、リフトの最下降位置から最上昇位置まで上昇する状態を順に示す。

30

【図 1 1】図 9 に示すリフトを使用した遊技機のリフト付近における図 1 0 の A の XI - XI 部位に対応する前後方向に沿った概略縦断面図であり、リフトの最下降時と最上昇時との状態を示す。

【図 1 2】実施形態の他の変形例のリフトの斜視図である。

【図 1 3】図 1 2 に示すリフトを使用した遊技機のリフト付近の概略正面図であり、振動しつつ上昇する状態を示す図である。

【図 1 4】実施形態のさらに他の変形例のリフトを使用した遊技機のリフト付近の左右方向に沿った概略縦断面図であり、リフトの最下降位置から最上昇位置まで上昇する状態を示す図である。

【図 1 5】図 1 4 に示すリフトを使用した遊技機のリフト付近における前後方向に沿った概略縦断面図であり、リフトの最下降時と最上昇時との状態を示す。

40

【図 1 6】実施形態のさらに他の変形例のリフトを使用した遊技機のリフト付近の左右方向に沿った概略縦断面図であり、リフトの最下降位置から最上昇位置まで上昇する状態を示す図である。

【図 1 7】図 1 6 に示すリフトを使用した遊技機のリフト付近における前後方向に沿った概略縦断面図であり、リフトの最下降時と最上昇時との状態を示す。

【符号の説明】

【 0 0 6 1 】

1 ... (パチンコ) 遊技機、

9 ... (始動) 入賞口、

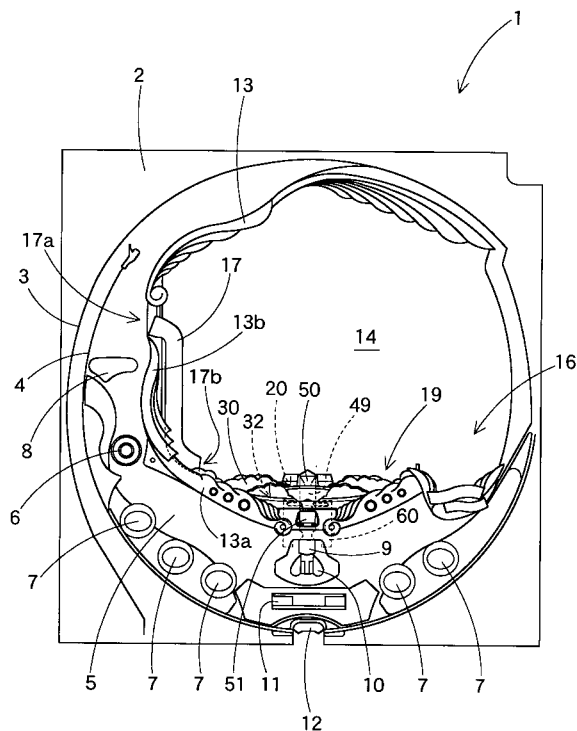
50

- 1 6 ... センター役物、
 1 7 ... (入球口) ワープ通路、
 1 9 ... ステージ部、
 2 0 ... 上ステージ、
 2 4 , 2 5 ... 隣接エリア、
 3 2 ... 下ステージ、
 3 5 ... 案内面、
 3 6 ... 傾斜面、
 4 4 ... 排出路、
 4 6 ... 戻しルート、
 4 9 ... 入賞補助通路、
 5 0 ... 流入口、
 5 1 ... 流出口、
 5 2 ... (流出口側の部位) 流出側通路、
 5 3 ... 分岐通路、
 6 0 , 6 0 A ... リフト、
 6 1 , 6 1 A ... 支持面、
 6 1 a ... 前縁、
 6 1 b ... 後縁、
 6 2 ... 中央底部、
 6 9 ... 第 2 流入口、
 7 1 , 7 1 A , 7 1 B ... 干渉部、
 B ... 遊技球。

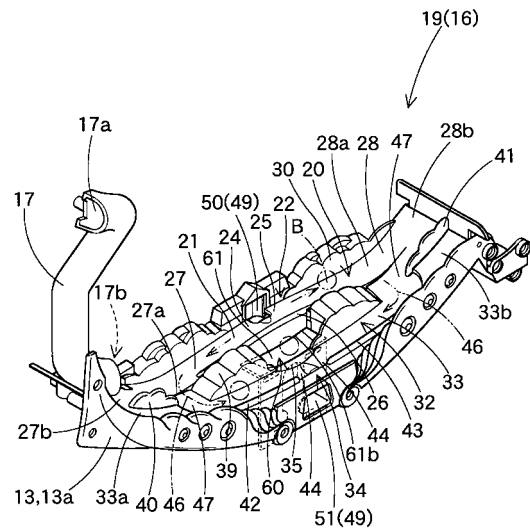
10

20

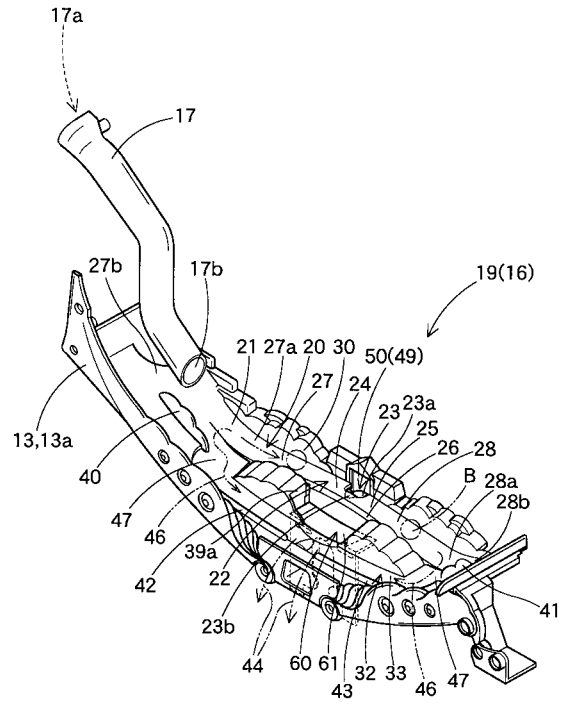
【 図 1 】



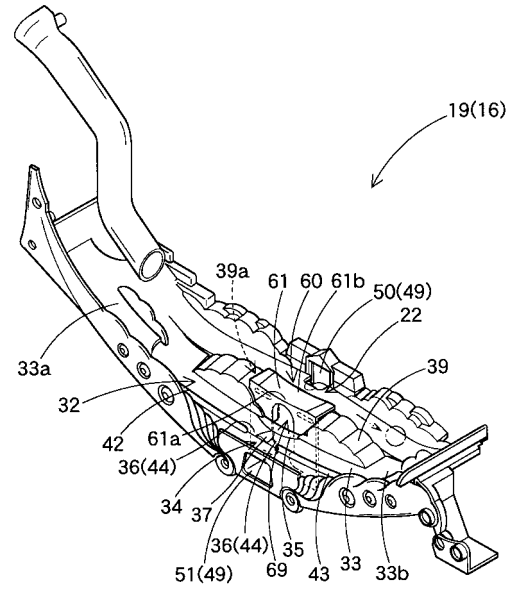
【 図 2 】



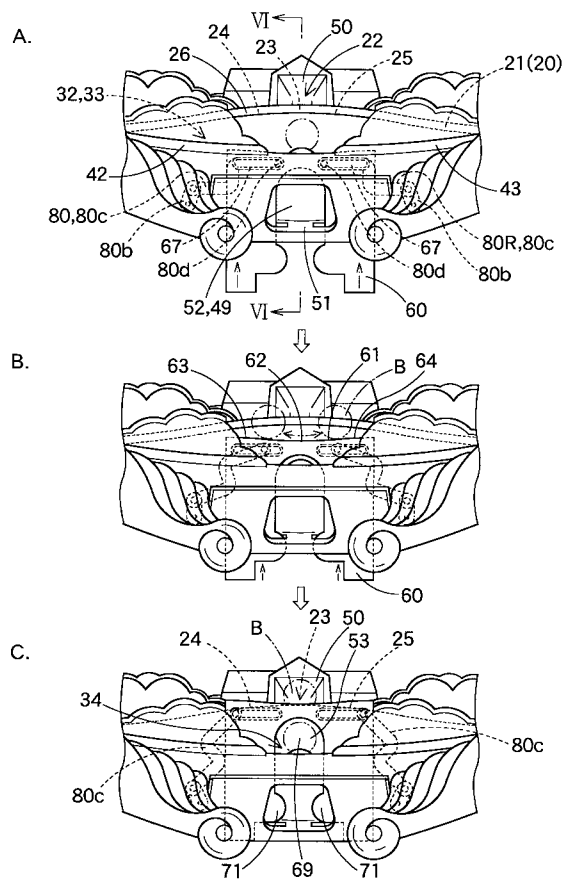
【 図 3 】



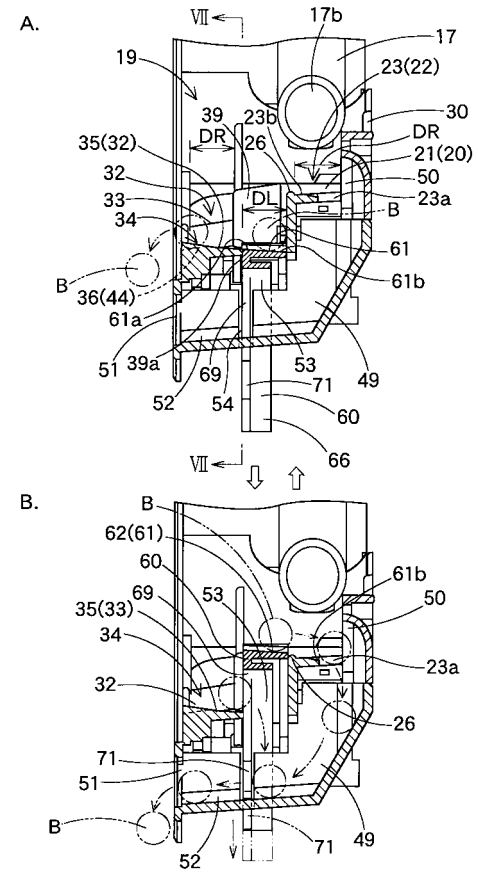
【 図 4 】



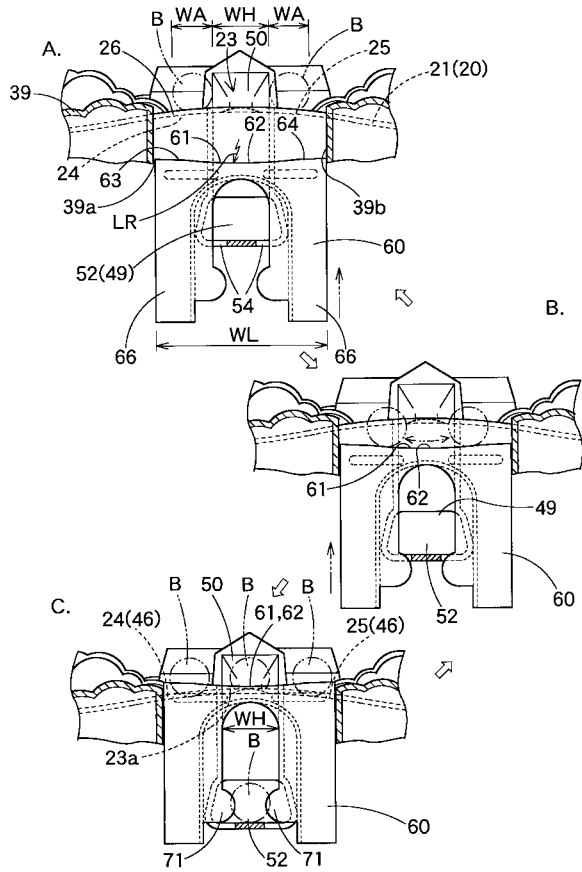
【 図 5 】



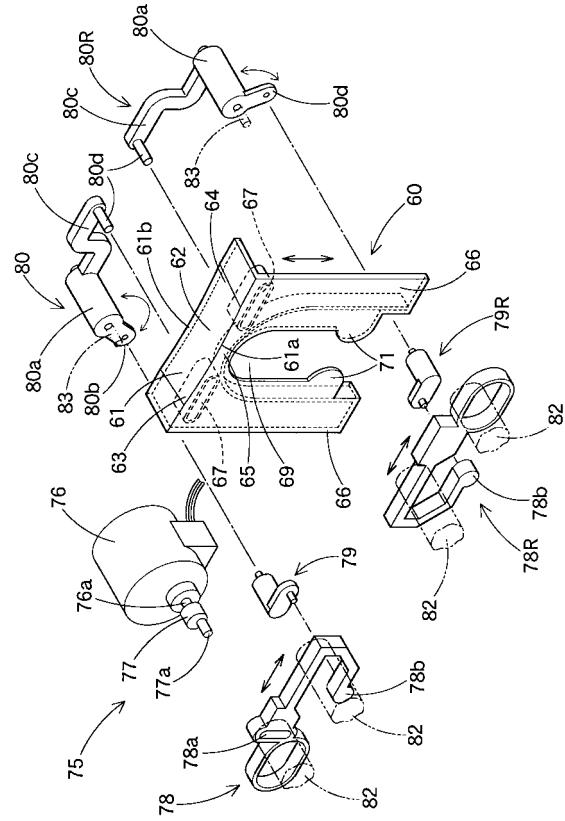
【 図 6 】



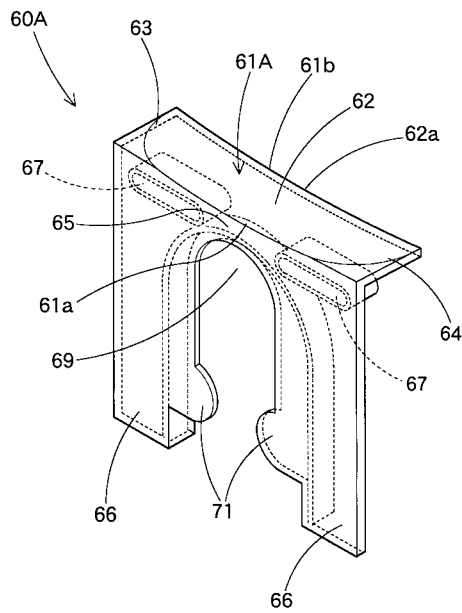
【 図 7 】



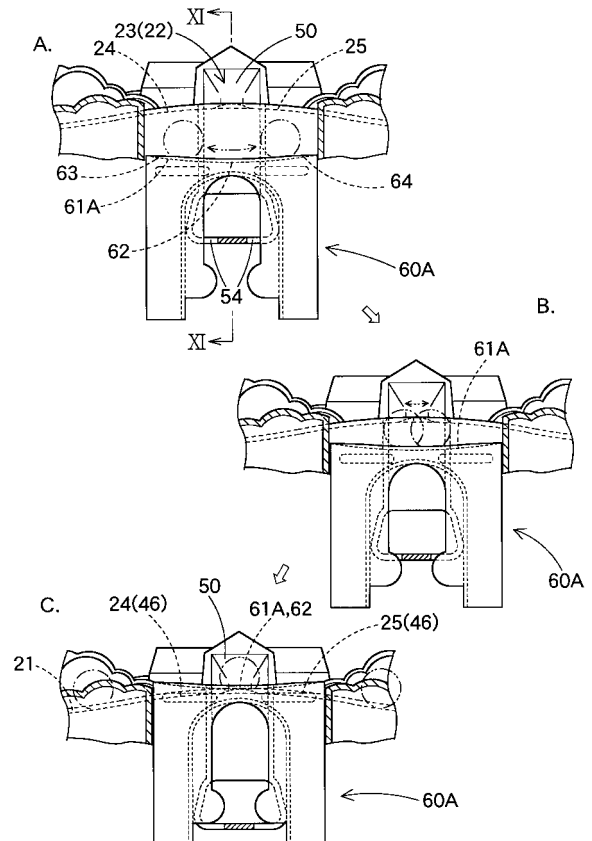
【 図 8 】



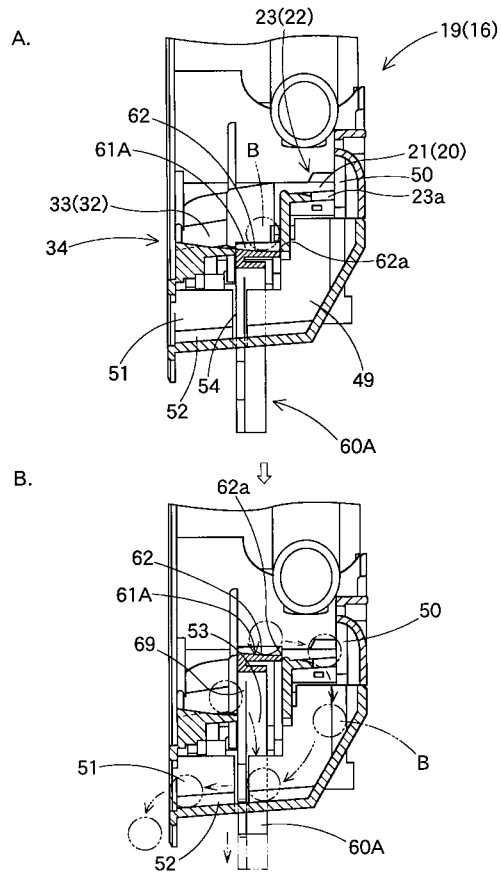
【 図 9 】



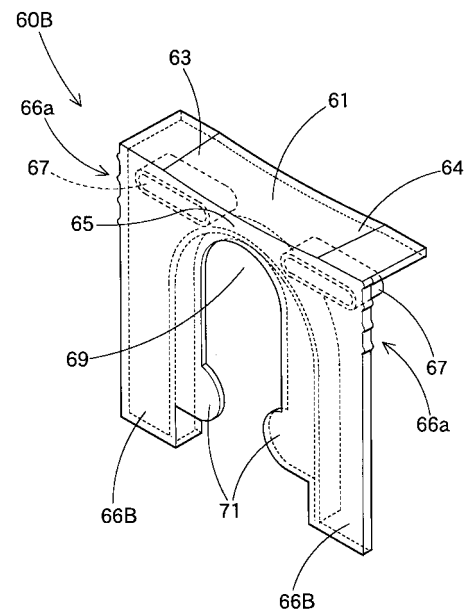
【 図 10 】



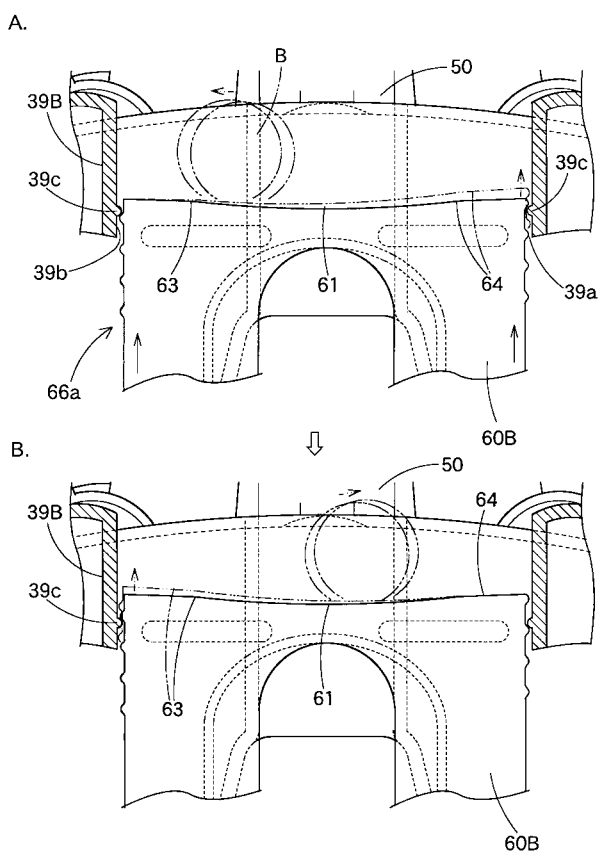
【図 1 1】



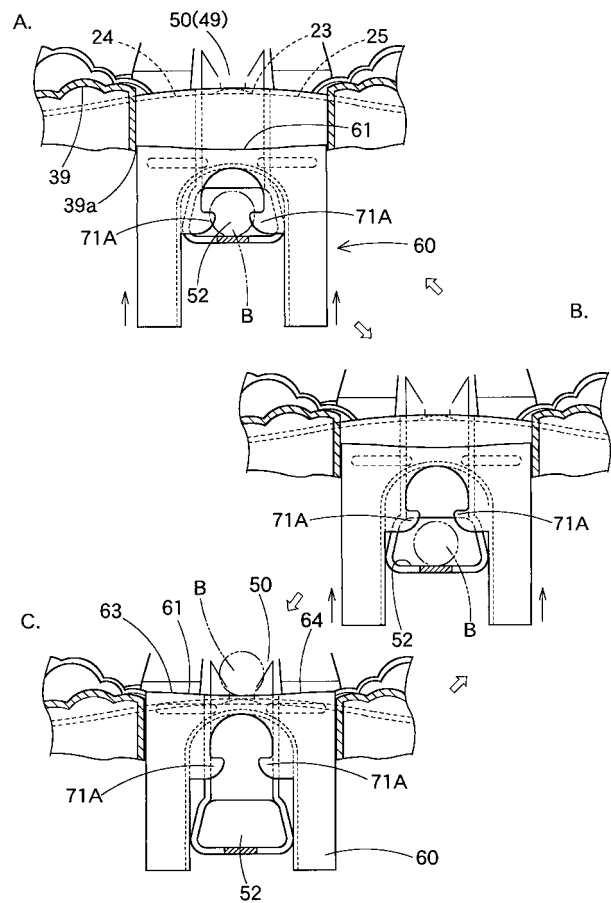
【図 1 2】



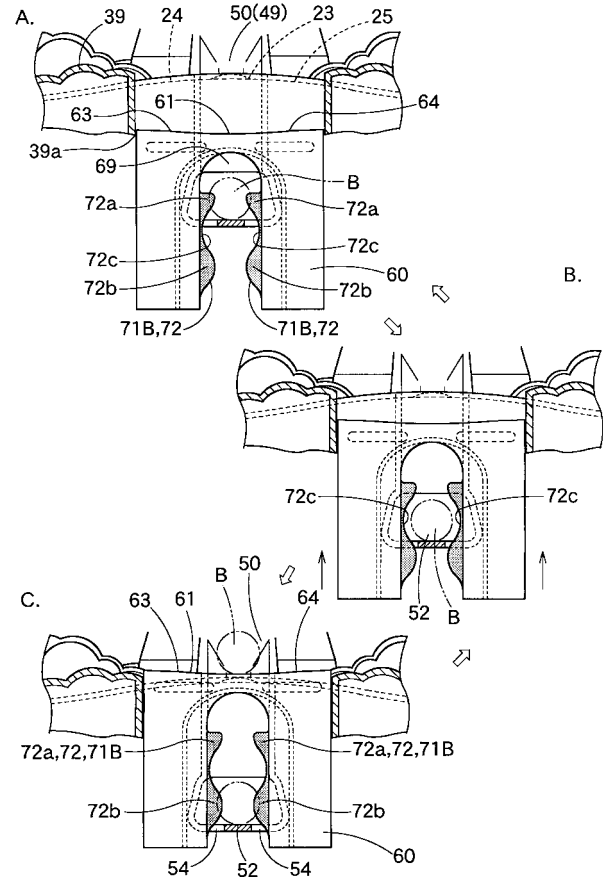
【図 1 3】



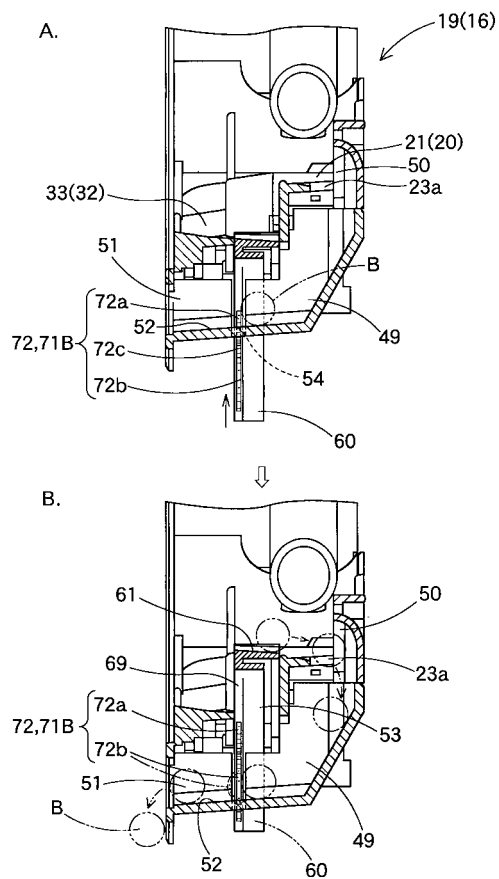
【図 1 4】



【 図 1 6 】



【 図 1 7 】



フロントページの続き

(72)発明者 佐藤 彰芳

愛知県名古屋市中区錦三丁目 2 4 番 4 号 京楽産業、株式会社内

F ターム(参考) 2C088 BA02 BA09 BC15 BC22 EB52 EB56 EB58